

人と人がつむぐ、素敵なものごたたり



『Minole life のすすめ』取材・執筆
みのんば編集局

ふじた さちこ
藤田佐知子さん

「みの〜れでの人との出会い
が宝物です」と藤田さん。

(写真は取材の様子)

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ 100号記念号外

平成27年10月「Minole Life のすすめ」は100号を迎えました。『Minole Life のすすめ』は地元新聞販売店の小路(こうじ)新聞販売が毎月第3月曜日に発行するミニコミ誌「ありす新聞」に掲載されているコラムです。このコラムは小美玉市部室地区にお住まいの住民ボランティアの藤田佐知子さんが、みの〜れで輝く『人』に焦点をあてて取材・執筆を行っています。今回100号を迎えるにあたり、藤田さんからのメッセージを号外として掲載いたします。

Minole

Life のすすめ

100号を迎えて

お陰様で10月に「Minole Life のすすめ」100号を発行することが出来ました。取材を受けた方の中には、素人の私が原稿を書くなんて・・・と不安になった人もたくさんいるでしょう。でも、快く引き受けてくれた皆さん、小路新聞店さん、みの〜れの職員の皆さんに支えられて、100号を迎えました。今は、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。

私が文章を書いてみたいなど思ったのは、15年前、父が亡くなって一週間くらいたった頃だったと思います。新聞のミニコミ紙にハガキで一言コメントの募集があり、私は父の思い出を泣きながら書いて応募しました。このハガキが審査員の目に留まり、

大賞という一番大きな賞を頂きました。これがかきつけかけとなり、私はこのミニコミ誌の特派員になって、少しの間、地区の楽しいイベント、幼稚園、小・中学校、高校などの行事など、依頼があった時に記事を書かせて頂きました。今、考えると『素人の私が記事を書くなんて・・・若い時の勢いってスゴいな!』と恥ずかしくなりますが、勉強にもなって楽しかったのです。

そして、小路新聞店の小路章子さんと当時みの〜れ職員だった中本正樹さんに声をかけて頂き「Minole Life のすすめ」を書かせてもらえることになりました。私は、みの〜れでたくさんの人たちと出会うことが出来て、皆さんの楽しい生き方に刺激を受けて、それを文字にしてみました。言葉が浮かばなくて、文章がまとまらなくて悩むことも多いけど、『今度は何を書こうかな?』って考えると、野の花も、空気も、

周りの景色も、言葉も、みんな大切な物に見えて、楽しいなって思っています。

みの〜れ近くのこの土地で生まれ育った私、みの〜れのすそ野ですと暮らして行く私だから・・・きっと、父が素敵な人たちに出会えるように、たくさんの人たちとお話出来るようにしてくれたんだと思います。「藤田さん・・・もうそろそろ卒業しましょうか?」と言われそうな気配を感じるまで、もう少し皆さんの縁の下の力持ちでいたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

(藤田佐知子)